

1. 自己点検・評価の目的、方法等について

1-1: 自己点検・評価の目的

科目「AI・データサイエンスと現代社会」は、AI・データサイエンス全学プログラムの導入教育として位置づけられ、全学部生を対象として開講しており、「[数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度\(リテラシーレベル\)](#)」に認定されています。認定の要件において、自己点検・評価活動の実施が定められており、AI・データサイエンスセンターの組織別評価委員会での評価活動をこれに充てます。

1-2: 自己点検の項目と評価基準について

項目: [「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度\(リテラシーレベル\)」の創設について\(2020 年3月 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度検討会議\)](#)の 3.3.1「認定教育プログラム」の要件(8)質保証(自己点検・評価)に掲げられている「審査の観点」に沿った項目としています。

自己点検内容: 別紙資料等にある関連内容を記載しています。

評価: 以下の分類に従い評価を行っています。

- S: 諸活動は極めて高い水準にある
- A: 諸活動は高い水準にある
- B: 諸活動は高い水準に至っておらず、不十分な状況にある
- C: 諸活動には重大な問題点があり、速やかな改善が求められる
- F: 評価不能一判断材料等の不足により、具体的な判断ができない

2. 科目「AI・データサイエンスと現代社会」について

2021 年度より、学部間共通科目として全学部の1年次から履修可能な科目として開講しています。履修者数が多いことから、2023 年度までは開講時期を学部毎に分けていましたが、学生がより履修・修得しやすいよう 2024 年度はこれを解除しました。授業は遠隔授業(オンデマンド型)で6名の講師がオムニバス形式で担当しています。科目内容、履修者数やアンケート結果等資料を御参照ください。

3. 資料等

- 1) AI・データサイエンスと現代社会
- 2) シラバス(前期、後期)
- 3) 2024 年度現代社会履修者数
- 4) 授業アンケート結果集計
- 5) 授業アンケートコメント
- 6) 情報関連教育プログラム部門授業担当者委員会において開陳された主な意見
- 7) [「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度\(リテラシーレベル\)」の創設について](#)
リンクのみ

3.「AI・データサイエンスと現代社会」自己点検・評価レポート(案)

3-1:学内からの視点

No.	項目	自己点検内容	評価 (昨年度)
1	プログラムの履修・修得状況、学修成果	・2024年度は6,753名が履修し、6,265名が単位修得した(修得率:92.8%)。前年度と比較して履修者数、修得者数とも大幅な増加となった。 ※参考 2023年度:履修者数 3,602名、修得者数 3,293名(修得率:91.4%)。 ・本プログラム履修者数のKPIは、1年次の履修者数としている。2024年度は2,073名(入学定員の33%)を目標としていた。実績は全学合わせて1,814名が1年次に履修をした。 ・2024年度は学部毎の前期後期の履修区分を撤廃し、全学部生が希望の期に履修することを可能とした。これにより、履修者数、1年次履修者はいずれも昨年を大幅に上回ったものの、目標値に対しては下回る結果となった。2025年度は新入生ガイダンスでのPR強化を図りたい。 ※参考 2023年度:目標 1,068名 実績:1,057名	B (A)
2	学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度、後輩等他の学生への推奨度	・授業アンケートの質問項目「この授業の内容を理解し、習得できた」の評価平均は、全体平均(前期 5.5、後期 5.6)と同じ値(前期 5.5、後期 5.6)となった。 ・授業アンケートの質問項目「学生が能動的に参加したくなるような授業であった」の評価平均は、全体平均(前期 5.4、後期 5.6)とほぼ同じ値(前期 5.4、後期 5.7)となった。 ・質問項目「本科目の履修を後輩や友人に推奨しますか」の評価平均は、全体平均(前期 5.6、後期 5.7)を上回る値(前期 5.7、後期 5.9)となった。	A (A)
3	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	・科目開設初年度より、全学部生を対象として開講している。 ・全ての学部生から履修がなされた。	S (S)

3-2:学外からの視点

No.	項目	自己点検内容	評価
4	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	・2024 年度に本プログラムを修了し就職した学生 958 名の主な業種別就業状況は、通信・情報サービス(19.2%)、金融・保険(17.2%)、メーカー(12.3%)、卸・小売(11.0%)、専門・技術サービス(9.3%)、公務(7.0%)、サービスその他(6.1%)、運輸(3.5%)、不動産・リース(3.5%)、建設(3.3%)などとなっており、今後各分野で活躍することが期待される。	A (F)
5	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	・6名の講師で実施している本科目は、実務経験のある講師が2名参加しており、実際の業務経験を踏まえた講義をしている。	A (A)

3-3:不断の改善・進化に向けた取り組み

No.	項目	自己点検内容	評価
6	数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	・授業アンケートの質問項目「この授業に対する総合的な満足度について」の評価平均は、全体平均(前期 5.5 後期 5.6)を上回る値(前期 5.6、後期 5.7)となった。 ・授業アンケートの質問項目「この授業によって、自身の能力の高まりや成長につながった」の評価平均は、全体平均(前期 5.5、後期 5.6)と同じ値(前期 5.5、後期 5.6)となった。	A (A)
7	内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	・授業アンケートの質問項目「講義要項(シラバス)に示されていた学習目標や内容と合致していた」の評価平均は、全体平均(前期6.0、後期6.1)とほぼ同じ値(前期:6.1、後期 6.1)となった。 ・授業アンケートの質問項目「担当教員の話し方は聞き取りやすく、理解しやすいものだった」の評価平均は、全体平均(前期 5.5、後期 5.6)を上回る値(前期 5.6、後期 5.8)となった。	A (A)